

右舷灯



半世紀も前のことだが、幼い頃から船ファンだった筆者は、念願がなって大阪の大学で船舶工学を学ぶようになり、趣味としての船旅や

がしたいのですが」と相談を受けて、がぜんやる気がでた。そしてフェリー会社と造船会社のご協力のもと「船舶工学を学ぶ大学生を対象とした造船所見学のためのフェリーの旅」が実現した。学生と引率の先生も

過などをデッキから楽しんだ。翌朝、新門司で下船した後、各自下関に移動して三菱造船で集合。艤装中の日本初のLNG燃料フェリー「さんふらわあくれない」を見学し、さらに若手の造船技術者からフェリー建造の技術についての講義を受けた。夕刻からはOB・OGとの交流会ももち、いろいろな裏話

が続々と開設されて、実家のある北海道への帰省は鉄道から海へとシフトした。

大学生の研修旅行

事後のアンケートでは、船旅全体としては100%の満足度が得られ、造船とフェリーに興味をもってもらえ、将来は船の仕事に就きたいという声もかなりあった。実際の船に乗り、船が造られるのを見るこ

こうして船と港への愛着を育み、仕事としての船と、趣味としての船を両立させた人生が始まった。そんなことへの恩返しとして、今、船舶工学を学ぶ大学生にも、実際に船に乗ってもらい船を好きになってもらいたい

「フェリーふくおか」に乗船することになった。

大阪南港で乗船して、ブリッジで船長と機関長から船舶の運営技術の説明を受け、フェリー乗りの船が造られるのを見ることか

生を船旅も楽しんでもらう企画

会社首脳からは、長距離フェリーの役割や経済的な話を聞かせていただいた。出港後は展望風呂で汗を流し、夕食を共にし、神戸の夜景、明石海峡大橋の通

通じて、仕事と趣味の両面で船を愛する若者がでてくることを期待したい。

(池田良穂)